

令和3年度（第18回） ロービジョンケア講習会

（旧 低視覚者社会適応訓練講習会）

開催期間(Web開催)：令和3年9月6日（月）～9月12日（日）

主催：一般社団法人大阪府眼科医会
共催：公益社団法人日本眼科医会
後援：一般社団法人大阪府医師会
社会福祉法人日本ライトハウス

講演内容

（1）「見えにくくなり始めたときのロービジョンケア」

講師 原 田 敦 史 先生

（堺市立健康福祉プラザ 視覚聴覚障害者センター センター長）

（2）「加齢黄斑変性の治療とロービジョンケア」

講師 山 本 学 先生

（大阪市立大学大学院医学研究科視覚病態学 講師）

講演（１）「見えにくくなり始めたときのロービジョンケア」

堺市立健康福祉プラザ 視覚聴覚障害者センター センター長
原 田 敦 史 先生

見えにくくなってくると生活に困ることがでてきます。

その中には簡単に解決できるものも多くあります。

しかし、解決の方法を知らないまま、困りながら生活をしている方も多いのでと思います。

今回の講習会では見えにくくなると困ること、その解決法について紹介しながら

見えにくい人の気持ちについても話をします。

また視覚障害者の専門家の支援や大阪府内の各団体の情報も提供します。

見えにくい人が医療と福祉を並行して利用することでよりよい生活につながります。

見えにくくなり始めた方へのロービジョンケアをまとめられたらと思っています。

プロフィール

1995年 国立視力障害センター勤務(所沢、函館、神戸)

生活指導専門職 心理判定専門職

2007年 公益財団法人日本盲導犬協会勤務(仙台訓練センター)

リハビリテーション事業部 マネージャー

東日本大震災時には視覚障害者支援対策本部現地責任者で支援を実施

2012年 堺市立健康福祉プラザ 視覚聴覚障害者センター 勤務 点字図書館 館長

2021年 堺市立健康福祉プラザ 視覚聴覚障害者センター センター長

社会福祉士・歩行訓練士

講演（２） 「加齢黄斑変性の治療とロービジョンケア」

大阪市立大学大学院医学研究科視覚病態学

講師 山本 学

加齢黄斑変性（AMD）は日本の社会的失明原因の第４位で、50歳以上では1.3%にみられるとされ、高齢者における視機能障害では重要な疾患である。AMDでは、黄斑部が変性萎縮や線維瘢痕形成により障害されるため、中心暗点や変視の自覚症状が出る。初期では周辺視野は保たれているため、片眼性では自覚しにくい事もある。

AMDの治療は光線力学的療法（PDT）や血管内皮増殖因子阻害薬（抗VEGF薬）が保険適応となり、視力予後は改善してきた。しかしながら、進行したAMDでは回復は難しく、早期発見・早期治療が基本となる。また、AMDの発症予防には禁煙、サプリメントや緑黄色野菜の接種、光予防が重要とされる。

AMDによる視機能障害では、発症年齢が高い事、早期から晩期まで中心視野の障害である事が問題となる。高齢者は若年者よりも視機能障害が生じた場合に適応が難しく、中心視野障害は進行性でそれぞれの視機能に応じた対応が必要となる。

プロフィール

2002年 大阪市立大学医学部 卒業

大阪市立大学医学部附属病院眼科 研修医

2003年 医療法人藤田眼科

2008年 大阪市立大学大学院医学研究科博士課程 修了

大阪市立大学医学部附属病院眼科 後期研究医

大阪市立大学医学部附属病院眼科 病院講師

2012年 大阪市立大学大学院医学研究科視覚病態学 講師